

例年より10日早く、四国地方では桜も開花し、校庭ではうぐいすの鳴き声が早春の訪れを告げています。

先日、たくさんの思い出を胸に3年生が卒業し、在校生の皆さんが上級生として勉強に、部活動に活躍する時がきました。そこで、読書を通して自分磨きをしてください。先月紹介した新刊を読んだ人も多いと思いますが、今話題の本が開架中です。



さて、いよいよ春休みに入ります。新学期の準備で忙しくなりますが、気分転換に図書館でどんどん本を借りて、気持ちを新たに良い新学期を迎えましょう。

今月は「仕事」をテーマにオススメ本を紹介します。また、1・2年生の図書委員からのオススメ本も紹介します。(3月23日(火)～25日(木)の春季セミナー期間中は図書室は開館予定です。)

☆☆☆☆☆ (先生方からのオススメ本を紹介します 先月の新刊本です) ☆☆☆☆☆

理科 宮本 康平 先生からのオススメ本を紹介します

「なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと」

監修 池上 彰 学研プラス

「なぜ僕らは働くのか？」と問われて、皆さんならどのように答えるでしょうか。この本では、次のように述べられていました。

「この問いには、100人いれば、100通りの答えがあります。正解はなく、誰もが自分なりの答えを持っている。」

自分なりの答えを持っていますか？将来についてどのくらい考えていますか？ぜひ、この本を手にとって、「働く」ことに対する自分なりの答えを見つけてみましょう。



〔1・2年生図書委員から図書館のオススメ本紹介〕

①「地下街の雨」 宮部みゆき(著) 集英社文庫

登場人物の感情の移り変わりがよくて、主人公の行動の表現がイメージしやすい本です。

(あらすじ)

住宅街で起きた殺人事件。殺された男性はインターネットの掲示板上で、「疑似家族」を作っていた。殺人に関わりがあるのか？ミステリー作品です。



②劇場版「鬼滅の刃 無限列車編」ノベライズ

吾峠呼世晴(原作) 松田朱夏(小説) ufotable(脚本)

映画も見ましたが、やっぱりいい作品です。泣けます。映画を観た人はもう一度あの感動を、映画を観られていない人も小説で感動を共有しませんか。



③「世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本」

池上 彰(監修) 学研プラス

SDGsは2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標のことで、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

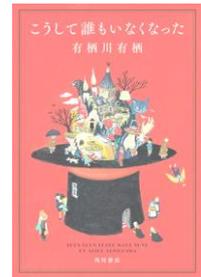
読むと、とても勉強になります。知ることから始めて、できる行動に移してみませんか。



④「こうして誰もいなくなった」 有栖川有栖(著) 角川書店

短編でとても読みやすいです。私の好きな作品です。是非読んでみてください。(あらすじ)

伊勢湾に浮かぶ、通称「海賊島」に招かれた10名の男女。仮想通貨で巨万の富を得た大富豪「デンスケ」の招待によるミステリアスなバカンスは、予想外の断罪で幕を開けた。死亡事故を起こしたモデル、ブラック企業の社長、その肩を持つ政治家、「悪の食物連鎖の頂点に立つ」弁護士。次々暴かれる招待客達の悪行、そして恐るべき殺人事件が起きます。



⑤雑誌 「ダ・ヴィンチ」 毎月購読中 KADOKAWA

毎号、話題の新刊から過去の名作まで数百冊に及ぶ本やコミックを紹介する本の情報誌『ダ・ヴィンチ』。有名人のエッセイや読者投稿コラム、アンケート、世相と本の関連を新しい視点で切り込む特集、新刊文庫・新書情報・新刊コミック情報など幅広く取り上げられています。

今月号はEXILEファミリーが好きな人には熱い内容となっています。個人的には和牛のお二人がひと月交代でしている連載が読みやすくお勧めです。



⑥「1日1話、読めば心が熱くなる 365人の仕事の教科書」

藤原秀昭(監修) 致知出版社

(以下、本書より抜粋)

「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」永守重信(日本電産社長)

「仕事にも人生にも締切がある」道場六三郎(料理の鉄人)

「脳みそがちぎれるほど考えろ」孫正義(ソフトバンクグループ会長兼社長執行役員)

「奇跡を起こす方程式」佐渡裕(指揮者)

「自分を測るリトマス紙」羽生善治(将棋棋士)

